



会員近況

専修大学北海道短期大学 程野 真
経済学科

二十数年間住みなれた東京と湘南の地を離れ、一昨年3月末家族とともに北国にきました。札幌より約60km北東に位置するここ美唄は、石炭の町として日本のエネルギー政策そのままの歴史をたどってきました。昭和38年頃その全盛期が終焉した後は工業団地、専修大学農工短大、自衛隊などが入ってきました。当時の10万人の人口は現在約3分の1に減少し、諸施設だけがそのままの規模で維持されています。10月に入ると雪に備えなければならない道内でも有数の豪雪地帯の1つです。過去50年間の平均降雪量は6m。雪深いため比較的「しげれ」が弱いところですが、今冬は零下20度以下まで下がり、冬の生活は決して楽ではありません。

大学では統計学、数理統計学、OR関連科目を1、2年生に教えています。当市で統計学、ORの専門家は小生1人です。市では新工業団地の造成、農業のバイオテクノロジーの問題等にとりくんでいます。活性化に結びつかず人口は流出しています。約2年間これを研究テーマにしてきましたが、要因の1つは、固有の技術、知識の蓄積に欠けていることであると考えられます。さらにこの問題を掘り下げていきたいと思っております。

九州大学工学部 松山 久義
化学機械工学科

専門はプロセス制御で、特にOR的手法を利用した異常診断に興味をもちます。特殊な信号をとらえるための計測器など使わなくても、通常の計装から得られる情報だけで異常の原因の候補をかなり絞れるはずだと考えてはじめたテーマです。

連続式プロセスには、東京大学の伊理正夫先生のご指導で開発した符号付有向グラフを用いた診断法が最も強力で、パイロットプラントでの実用化試験を終えて、本プラントのためのシステムを準備中です。しかし、回分式プロセスでは、測定点が少ないうに、状態が時間の関数になるので、この診断法で原因の候補を絞ることはかなり困難です。これにはパターン認識を利用した診断

法が有力で、最終的には線形計画法に帰着します。また、対象を測定器の異常に限定すると、整数の混合した2次計画法で診断できます。

ORは計画や管理の段階での意思決定に広く使われてきましたが、運転の段階での意思決定にももっと使われていいのではないかと思います。ORの「O」には、「運転」という意味もあるはずで

京都産業大学経営学部 宮野 高明

出身が工学畑でありながら現在は経営学部で教育にたずさわる身のこととして、門前の小僧なんとやらの諺よろしく、ここ数年来とりくんできたテーマは「情報処理サービス業の業態論」とでも称すべきもので、対象を受託計算センター・ソフトウェア開発・システム開発関係の企業にしぼり、その実態を機能・人材・経営・企業間相互関係等の観点から調査し、わが国の情報化促進に大きな役割を果たしている、いや、はたしている筈のこれら業界のかかえている不健全さのよってきたるべき所以を解明し、情報化社会ないしは高度情報化社会への移行に不可欠の上記業界の健全化をいかにかはるべきかを模索してきて、そろそろまとめなければと考えている昨今である。

わが国の大学教育を私立大学の存在を抜きにして論じ得ないのと同様に、わが国の健全な情報化促進に関して情報処理サービス業を無視できないのみか、その育成が社会的にも大きな課題であることの認識が低いように思えてならない。

千葉工業大学工業経営学科 堀内 俊幸

学生の卒論で、「よい文章」という意味を「わかりやすく読みやすい」と定義し、どのような文章がわかりやすく読みやすいか検討しました。対象とした文章は、新聞コラム、技術評論、研究論文の中からそれぞれ抽出し、句の長さや漢字の比率などを教え、学生(約40名)が読んで評点をつけました。結果は、文章ごとのわかりやすさと読みやすさには強い正の相関が認められ、読みやすい文章はわかりやすい文章であるということができそうです。また、文章における句の長さの平均値やバラツキが大きいの、研究論文のように専門用語の多い文章は読みづらくわかりづらくなる傾向を示すようです。この文章の評価方法については、さらに検討が必要ですが興味深い結果であるといえます。

はたして、本文が読みやすくわかりやすい文章であるかどうかは疑問ですが、今後とも読みやすくわかりやすい文章を心がけたいと思っております。

られる今日この頃です。

横河北辰電機
情報応用技術部1課 星野 直彦

日本電気(株)
C&Cシステム研究所通信研究部 前野 和俊

当研究部においてローカルエリアネットワークの研究を担当しています。情報化時代に入り音声のような1次元の通信から画像といった2次元の通信を行なう時代にまさに突入しようとしています。家庭やオフィスに画像をメディアとしたコミュニケーションが導入されるのも近いと思われま。

このように今までなかった通信メディアの登場やVANの出現などにみられるように、われわれは今まで過去の人類が経験しえなかった情報化時代を目前としているわけでありま。しかし現在のところその構築技術が先行して、それを使う人間の意識はずっと後にとり残されているようでありま。科学の進歩は人間生活の向上を目標とするものであり、人間がそれを後から追いかけるものではないはずで。

単なる技術のもてあそびでなく、本当に必要なものは何かを見つめることが研究開発にたずさわっている者の仕事の一步であると思いま。このことを特に考えさせ

ここ数年、プロセス用計算機のシステムエンジニアの仕事をしておりま。客先との打合せにより、仕様を検討する仕事ですが、仕事上まず大切なことは客先と同じ土俵にあらねばならないということ。早くその客先の特有の言葉、やり方をつかむ必要があります。同じ業種でプラント自体はそれほど変らなくとも、客先が変わると計算機に要求する機能はかなり変わってきます。客先の要求を聞いたら、過去の自分の経験からパッケージの機能と使用方法を念頭に入れ、客先に合ったスタイルを決めることが大切で。それから先はその思想にしたがって要求を満たしていく方法を考えることになりま。そうしないと、詳細に検討が進むにしたがって思想の不統一がおこり、ボロがでてくることになりま。しかし検討中客先より新しい手法や、今まで文書上でしか読んでいないようなことを要求されると、体の奥にいた若さがおきだし、熱中してしまい、自分を忘れてしまうことがあります。最近では、同じものを何回か経験していると、未知の領域にチャレンジしてみたい冒険心が強くなって困っています。

会合記録

()内は出席者人数
フェロー会議 3月4日(月)(8)
モニター委員会 3月5日(火)(3)
編集委員会(本誌) 3月6日(水)(9)
国際委員会 3月7日(木)(7)
表彰委員会 3月8日(金)(6)
会員増強委員会(賛助会員)
3月11日(月)(4)
IAOR委員会 3月14日(木)(2)
研究普及委員会 3月15日(金)(7)
編集委員会(JORSJ)
3月20日(水)(3)
広告委員会 4月2日(火)(3)
庶務幹事会 4月2日(火)(6)
会長・副会長会議 4月4日(木)(7)
編集委員会 4月8日(月)(9)
会員増強委員会 4月9日(火)(3)

会計幹事会 4月11日(木)(2)
理事会 4月16日(火)(18)
評議員会 4月16日(火)(60)
通常総会 4月26日(金)(834)
第6回理事会議題 (60.4.16)
1. 第5回理事会議事録の件
2. 入退会の件
3. OR学会賞の選考経過について
4. 名誉会員推薦の件
5. フェロー推薦の件
6. APORS理事会開催報告
7. 連合シンポジウム開催の件
8. 特定研究「第三次経営技術革新」申請の件
9. 秋季研究発表会並びにシンポジウムの件
10. JORSJについて報告
11. 数理計画シンポジウムの件
①第6回数理計画シンポジウム協

賛依頼の件

②国際数理計画法シンポジウムの日本開催の件
12. 事務局職員採用の件報告
13. その他

人退会

●入会(正会員)

浅田 孝幸 桃山学院大学
石井 允夫 榑長野計器製作所
稲永 明久 福岡工業大学
瓜生 浩朗 福岡工業大学
小野寺泰男 東洋ゴム工業(株)
大平 卓功 防衛庁陸上自衛隊
大堀 隆文 北海道工業大学
大本 昭夫 関東短期大学
木村 丈治 日本電信電話(株)
木下 滋 阪南大学
清田三紀雄 (株)構造計画研究所